

1990年度 活 動 報 告

構造地質研究会事務局

1. 春の例会(1990年4月30日・5月1日, 於 奈良市高畑町778-1飛火野荘)

シンポジウム「応用地質学的にみた小断層・節理系」

世話人：横田修一郎(鹿児島大理), 横山俊治(川崎地質), 小山 彰(大阪市大理)

シンポジウムのねらい	世話人会
和泉層群中の節理系とそれによる斜面崩壊の構造規制	横山俊治(川崎地質)
不連続性岩盤におけるキープロック	三木 茂(基礎地盤コンサル)
岩盤の風化過程における節理系の役割	横田修一郎(鹿児島大理)
フラクタルを利用した小断層解析による温泉探査—NAKANOダイアグラム—	中野啓二(株ジオサイエンス)
断層物質のフラクタル性(粒度分布特性と表面積)	長濱裕幸(東京大地震研)
土木地質図における断層の表現方法	永田秀尚(株北海道開発コンサル)

個人講演

断層の自己アフィン性(形態と成長様式について)	長濱裕幸(東京大地震研)
四国西部瓶ヶ森周辺に分布する久万群中の変成岩レキについて	廣田善夫(島根大理)
中央北海道奥十勝変成岩体に見られるシンフォーム	渡辺 寧・中川 充(地質調査所)
九重—別府地溝(北西縁地域の古応力場)	木戸道男(大川高校)
篠山層群の構造	清水大吉郎(京都大理)
中生代火成岩年代に基づく西南日本と東北日本の復元	伊藤英文・木下 修(大阪府大)

特別講演

造構応力と起震力—造構節理と微小地震	平野昌繁(大阪市大文)
--------------------	-------------

野外巡検 「奈良市北西部の大阪層群の撓曲構造」

案内者：横山俊治(川崎地質), 三田村宗樹・小山 彰(大阪市大理),
佐野正人(サンコーコンサル株)

総会：89年度会計報告ならびに活動報告, 90年度予算案ならびに活動計画, 90年度全国運営委員・
会長・事務局体制

○1990年度体制—全国運営委員, 事務局

会 長 宇井啓高(富山大)

全国運営委員—継統 (※：事務局員 *：連絡係)

在田一則(北大)	越谷 信(岩手大)	川辺孝幸(山形大)
卯田 強(新潟大)	角田史雄(埼玉大)※	天野一男(茨城大)※
佐藤比呂志(茨城大)※	国安 稔(石油資源)※	久田健一郎(筑波大)
小玉喜三郎(地調)※	佃 栄吉(地調)※	木村克己(地調)※

尾崎正紀(地調)※	伊藤谷生(東大)※	村田明広(東大)※
久保田喜裕(金属鉱山)※	高木秀雄(早稲田大)	小坂共栄(信州大)
中江 訓(大阪市大)*	鈴木茂之(岡山大)	矢野孝雄(広島大)
宮田隆夫(神戸大)	小室裕明(島根大)	坂井 卓(九大)
山北 聡(宮崎大)	横田修一郎(鹿児島大)	

事務局体制

庶務：木村，会計：尾崎，編集出版：佃

運営：小玉，天野，伊藤，角田，久保田，村田

なお，下川浩一氏(地調)は会誌販売係として事務局に加わります。

○1989年度会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	579,954	会誌印刷費(34号分)	750,618
会費(入会金を含む)	732,800	通信・運搬費	160,989
会誌売上	474,591	事務・行事雑費	21,238
利子	5,690	別刷り印刷費(34号分)	350,618
34号別刷り代金	274,650	次年度繰越金	791,132
臨時収入	2,610		
その他	4,300		
合計	2,074,595	合計	2,074,595

(単位：円)

入会費：新入会員34人分

34号別刷り代金：支払いが1990年度でおこなわれたものは省く。

会誌印刷費：本来1988年度会計で支払うべきものを89年度で行っている。また，会誌35号も本年度五月印刷のため，90年度会計で行う予定のため次年度繰越金が79万円に達している。

行事費：例会の赤字分補てん。

2. 秋の例会(10月6日，富山大学での地質学会夜間小集会にて)

特別講演会

「重力異常からみた日本列島の大構造」 河野芳輝氏(富山大)

全国運営委員会ないし拡大事務局会議を開き，会則の内容について議論した。

3. 冬の例会(12月22日・23日，東京大学理学部地質学講義室)

シンポジウム「インバージョンテクトニクスの諸問題」

世話人：伊藤谷生(東京大理)，天野一男(茨城大理)，小玉喜三郎・木村克己(地調)

総論解説

伊藤谷生(東京大理)

北海堆積盆における“インバージョン”と問題点

小玉喜三郎(地質調査所)

Positive inversionの構造様式の多様性とその原因，及び構造解析の鍵としての

fault-propagation folds について

中村光一(地質調査所)

新潟油田地域における堆積盆の発展史と構造運動—インバージョンテクトニクスの検討
立石雅昭・植村 武・卯田 強(新潟大理)

油田地域におけるインバージョンテクトニクス—地震記録断面図とスケールモデル実験
服部昌樹・山田泰広(石油資源技術研)・浅野清継・喜多 保(石油資源物探)

新発田—小出構造線にともなう Inversion Tectonics 前田卓哉(東京大理)
フォッサマグナの沈降と隆起過程 角田史雄(埼玉大教養)

日本海東縁のインバージョンテクトニクス
岡村行信・山本博文・佐藤幹夫(地質調査所)

震探断面による日本海東部の構造形態 鈴木宇耕(出光石油開発株)
Strike-slip inversion 高木秀雄(早稲田大教育)

個人講演

九州四万十帯, 内ノ八重層の作るデュプレックス構造 村田明広(東京大理)
ネパールヒマラヤのスラスト・テクトニクスと地殻短縮

在田一則・Daniel Schelling(北海道大教養)

中国北西部のサイモテクトニクス—特に1920年にM8.7の巨大地震を発生させた
海原断層について— 佃 栄吉(地質調査所)

断層ガウジの年代—赤石裂線の例—

小浜俊介・安部武史・田中秀美・坂 幸恭(早稲田大教育),
狩野謙一(静岡大理), 板谷徹丸(岡山理科大)

測地的変動研究の歴史と課題 鈴木尉元(地質調査所)・飯川健勝(小千谷西高校)
山中地溝帯白亜系のブロック回転変形 田中秀実(早稲田大理工)

特別講演

フィリピン地震をみて—ネオテクトニクスの今後の課題—

松田時彦(東京大地震研)

臨時総会：会則改訂・編集委員会運営細則の提案, 1990年度の会計報告, 1991年度の予算, 活動方針,
体制他

○会則の改訂及び編集委員会運営細則の新設

シンポジウムと個人講演を柱する例会活動と, 年1回の会誌の発行を中心に進められている構造研の運営は, 年々内容が充実してきています。会則の改定の目的は, それにみあうように会則の不備を整えることにあります。具体的には以下のとおりです。

- 1) 会の目的・運営規則を明確にすること。
- 2) 会費の安定した納入をはかるために, 会費の長期滞納会員について自動退会措置がとれるように対策をとる。
- 3) 会誌の内容を良くし, 内容のある論文を収録していくために, 編集委員会を設け, 会誌を年2回定期発行する,
- 4) 従来, 地質学会に合わせて総会を開いていたため, 地質学会に属していない会員の参加が難しかったこと, 時間が十分にとれない, 地質学会の開催時期の変更によって影響を受けるなどの問題がありました。これらの問題解決のため, 地質学会から独立し, 会として運営ができるように, 単独で例会とともに総会を開くことを考えました。それで総会の時期を他の学会と重複があまりなく, 会計年度を設定しやすい時期として, 12月開催とし, 会計年度を1月—12月にする。

これまで会則の改定については、5月の春の総会で議論を行い、90年度NO.1のニュースで改訂案を会員に紹介し意見を求めました。それを受けて内容を全国運営委員会(秋の例会)及び事務局会議で検討しました。12月の冬の例会での総会において会則改訂の事務局案が提案され議論の結果、一部修正の上承認されました。改訂された会則及び新設された編集委員会運営細則は本号巻末に掲載しています。

○IASTGのSupporting Organizationへの参加決定

IASTG: International Association of Structural/Tectonic Geologists

経過と内容:

今年7月頃に嶋本氏(東大地震研)から事務局にTreagus氏(Jour. Struc. Geologyの編集長)から日本地質学会に宛られた手紙と原稿が送られてきました。それは計画中のInternational Association of Structural/Tectonics Geologists(IASTG)の活動に、日本地質学会の構造地質関係部門が参加する気があるかどうかを問い合わせるものです。嶋本氏は地質学会には構造地質部門がないので学会として参加するのは無理かもしれないと判断し、日本にある唯一の構造地質関係の研究会である構造研に上記の問い合わせを検討してもらえないかと依頼されたものです。

IASTGの活動については植村さん(新潟大、構造研の元会長)がJSGの編集長に提案されたといういきさつがあります。そして編集長は最近(昨年ぐらい)になってその可能性について各国のJSGの編集委員にアンケートをとって意見の集約を行い、その結果、具体的な構想を各国の構造地質関係の学会に打診することになったものです。

編集長の提案の概要は以下の通りです。

- 1) IASTG本部の仕事は会員名簿(公開)の作成とニュースレターの編集を中心とする。ニュースレターはJSGにのせて会員への個別発送はしない。
- 2) 各国に支部ないしsupporting organizationにおいて、財政的援助をしてもらう。一般の会員からは会費をとらない(送料を含めると決してやすくないから)。
- 3) Supporting organizationは定期的に活動状況をニュースレターにのせる。それによって構造地質・テクトニクスに関する国際的活動状況がわかるようにする。
- 4) IASTGの会員は、JSGを割引料金で購入できるようにする。これは、Geol. Soc. London, Geol. Soc. Am., 日本地質学会の会員に与えられた特典を他の国の研究者にも拡張しようとするものです。
- 5) 会員の名簿を公開し、それを入手すれば会議の案内などを直接会員に送付できるようにする。

事務局で議論した結果、IASTGのような国際的な研究活動にsupporting organizationとして加わることは、構造研の研究活動内容を世界に広く知らせたり、他の国の研究者・研究グループとの交流をはかる上できわめてよい機会であること、財政的な支援も現在の予算で5万円程度は可能であるという判断から、積極的に加わろうという結論に達しました。

総会において、以上の経過と内容、及びJour. Struc. Geologyの1990年no.8に掲載された“EDITOR'S ARTICLE-An International Association and an International Newsletter?”(Treagus氏によるIASTGへの参加のよびかけ)の内容を紹介し、議論の結果、本会がIASTGのSupporting organizationに加わる事が承認されました。

○1990年度会計報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	791,132	会誌印刷費(35号分)	406,850
会費(入会金を含む)	321,800	通信・運搬費	137,671
会誌売上	372,535	事務雑費	15,450
利 子	2,261	別刷り印刷費(35号分)	257,500
34・35号別刷り代金	178,300	次年度繰越金	855,827
行 事	3,270		
そ の 他	4,000		
合 計	1,673,298	合 計	1,673,298

(単位：円)

入 会 費：新入会員19人分

別刷り代金：支払いが1990年4-12月におこなわれたものだけ。

行 事 費：勉強会の黒字分。

そ の 他：郵便振込会費支払いにおける過分なもの。

利 子：定額貯金の利子は含まない。

会誌印刷費：本来1989年度会計で支払うべきものを90年度で行った。また、会誌36号も1991年3月頃印刷となり、91年度会計で行なわれたため、次年度繰越金が85万に達する。

○1991年度体制

会 長 宇井啓高(富山大)

全国運営委員 (※：事務局員 *：連絡係 ☆：新任)

在田一則(北大)	国安 稔(石油資源)	越谷 信(岩手大)
川辺孝幸(山形大)	卯田 強(新潟大)	角田史雄(埼玉大)※
天野一男(茨城大)※	佐藤比呂志(茨城大)※	久田健一郎(筑波大)
木村克己(地調)※	尾崎正紀(地調)※	小玉喜三郎(地調)※
高橋雅紀(地調)☆※	佃 栄吉(地調)※	伊藤谷生(東大)※
村田明広(東大)	久保田喜裕(金鉱事業団)※	高木秀雄(早稲田大)
小坂共栄(信州大)	狩野謙一(静岡大)☆	中江 訓(大阪市大)*
鈴木茂之(岡山大)	矢野孝雄(広島大)	宮田隆夫(神戸大)
小室裕明(島根大)	坂井 卓(九大)	山北 聡(宮崎大)
横田修一郎(鹿児島大)		

事務局体制

庶務：木村，高橋， 会計：尾崎， 編集出版：佃，
運営：小玉，天野，伊藤，角田，久保田， 書籍：下川浩一(地調)

編集委員会体制

編集委員会：委員は総会にて選出される。会誌の編集・出版を行なう。

小玉喜三郎，佃 栄吉，杉山雄一，久田健一郎

特別編集委員：各号について常任編集委員が委任する。各会誌の特集のフレームワーク(特集のタイトル・執筆者・構成等)を決める。

○活動方針

春の例会—地質学会松山大会(4月4日または5日)

特別講演, 懇親会

夏の例会—主催者を募集する.

冬の例会—シンポジウム, 総会, 個人講演

会誌—36号: プルアパート堆積盆特集の発行.

37号: 応用地質特集の編集・発行; 2月原稿〆切, 6月発行.

38号: 特集の内容は未定 12月出版予定, 8月原稿〆切.

1992年 IGC の Work Shop “Future perspectives in structural geology and tectonics” への協力

主催: 宇井啓高(富山大学理, 構造研会長),

P.L. Hancock University of Bristol

Secretary-General, Commission on Tectonics, IUGS